

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和5年3月30日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4670103482
法人名	医療法人 友志会
事業所名	グループホーム 玉里
所在地	鹿児島市玉里団地2-5-1 099-22-3115
自己評価作成日	令和5年2月24日

※事業所の基本情報は、WAMNETのホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/
-------------	-----------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま
所在地	鹿児島市新屋敷町16番A棟3F302号
訪問調査日	令和5年3月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

在宅療養支援診療所の届け出がなされている運営母体の内科・循環器内科のクリニックが同一敷地内にあり、月2回の往診を実施している。そのため、病気を持った利用者も安心して生活して頂けます。また、看取りにも対応しており、刻み食やミキサー食を作るなどして、最後まで経口摂取して頂けるよう工夫しています。食事は、色とりどりの食材を使用し、高齢者好みの美味しい料理を提供し、利用者様方に喜んで頂いています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは団地内にあるため利便性が良く、法人母体の協力医療機関に隣接したビルの2・3階に開設されており、階下のデイサービスや同一敷地内に併設されている「グループホーム良友」とは、日常的な連携や相互協力体制が整備されている。

理念は社会の状況やホームの現状等を考慮して、心の琴線に触れることを意識した会話に努め、快適な環境作りで笑顔あふれるホームとなり、食の楽しみを応援することを目指しているが、今後は地域との繋がりを大切にした文言を取り入れて見直す予定である。職員は毎朝の申し送り後に理念の唱和を行って意識付けを図り、利用者や家族のことをいつでも引き受けることのできる「本気のケア」を重視した介護に日々取り組んでいきたいと考えている。

殆どの利用者は主治医である母体医療機関の訪問診療を月2回受けており、これまでのかかりつけ医を受診する利用者の中には、家族同伴での受診を支援している。眼科・皮膚科等の専門診療科の受診や、馴染みの歯科医院から訪問歯科診療を受ける利用者もいる。夜間は母体医療機関と24時間連絡体制が構築され、ホームとの連携も密に図られて、殆どの利用者及び家族が希望するホームでの最期を本人や家族の思いを汲み取って支え、可能な限り希望に沿った支援となるように取り組んでいる。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	理念を職員室や廊下の壁に掲示してあるので、職員は勿論、入居者や訪問客も見られるようにしてある。ミーティング時、唱和も実施している。	理念は、来年度職員の意見等を募集し、地域との繋がり of 文言を表記して見直す予定であり、事務室や廊下に掲示して毎朝の申し送り後に唱和し、職員の意識向上を図っている。管理者は日々のケアにすぐに対応できるように、利用者の姿が見える場所でデスクワークを行っている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的に心掛けているが、コロナ禍で実施困難。しかし、行政の指針もあり、緩和されつつある。アウトドアに着目した支援を計画している。	町内会に加入しているが回覧板はなく、10週ごとにゴミ捨て場の掃除に参加している。コロナ対策が第5類になったらボランティアや職場体験学習を受け入れる予定で、2～3カ月毎の訪問美容、家族同行での通院は継続している。身体機能が次第に低下していく利用者が、どのレベルまで動けるか模索しながら支援している。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている	コロナ禍の中、電話等での介護相談頂いた場合、特に地域の方々の力になれるよう心がけ、館内での相談も実施している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回開催される運営推進会議。出席して下さる方々の意見を取り入れ、サービスの向上に活かしている。	会議は2カ月毎に40分以内で開催し、民生委員・長寿安心相談センター伊敷台職員が出席しており、次年度からは町内会長も参加予定である。家族の出席はなく、利用者の現況・行事・介護の様子・民生委員からの地域の実情等の報告や協議を通して、サービスの向上に繋げている。出席者・家族等への議事録配布がなされていないので、検討していきたいと考えている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	圏域であるが故、運営推進会議にも出席して下さる長寿安心センター伊敷台の職員の方々や市の生活保護課や長寿安心課の方々とは特に気軽に何でも相談できる関係を構築している。	主に長寿安心相談センターの職員に介護保険の更新・運営規程の変更・運営やケアに係る相談・生活保護受給者(4名)の処遇に関する事等、電話・メール・窓口等で相談して指導・助言をもらうなど、日頃から密に連携を図っている。市主催の研修会はズームで参加し、介護労働安定センター主催の研修会にも参加している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束を行わないケアの実践は年に4回にも及ぶ内部研修等でも徹底できている。	「身体的拘束等適正化のための指針」は整備されている。現在身体拘束等の事例はなく、ホームでの研修会を年4回実施して、管理者は日々のケアを通して職員の認識の浸透度を確認している。言葉遣いは「さん付け」で、言葉の言い方次第で利用者にストレスを与えることを意識して、ケアの実践に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的で開催している内部研修は無論、虐待に関しては朝夕のミーティング等で気軽に話しあえる状況にある。質疑応答という場面もある。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	内部研修以外ではほとんど行われない。他の分野と比べると理解力は薄いと思われる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所契約時、運営規定、重要事項等の説明を充分に行っている。入所申し込み時も含め疑問や質問に気軽に答えられるような雰囲気作りに努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者面会時、また、管理者が入居者家族に行う不定期的な電話連絡にて意見等を伺っている。	利用者の意向等は日頃の会話・表情・仕草等で把握し、うまく伝えられない場合は家族からの情報を参考にし、日々のケアの中で推測している。家族の意向等は面会・電話・利用料支払い等で把握しているが、利用者の認知症の進行度を理解できずに高いレベルで要求されることもある。管理者は、年始には家族全員に電話するなど、良好な関係づくりに努めている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は経営会議、管理者会議で議題に昇った事柄を支障のない範囲で職員に知らせ、運営に関しても職員からの質問を窺うも意見はほぼ皆無。	申し送り・ミーティング・日頃の業務等で職員の意見を把握するように努めているが、職員からの相談は少ない。研修会には勤務扱いで参加し、有休休暇は年6日、勤務交代は管理者を通して円滑に行われている。勤続年数5年以上が約3割で外国人の雇用もあり、職員間で協力し合ってケアに臨める体制づくりに取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	諸加算を含め、要件を満たすその他の加算に該当するかしないか留意している。残業時間ゼロ。有給休暇取得も実践できている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>内部研修のほか外部研修にも度々出かけている。また、出席者に、レポートを作成、提出して貰い、全従業員に閲覧して貰い、全員が研修参加したという自意識を高め、研修自体が職員の研鑽になるよう努めている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>コロナ禍で実施不可能。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	コミュニケーション摂取に比重を置き、サービス開始時から気軽に何でも話せるような関係作り努め、結果としてホームでの生活に安心感が持てるよう尽力している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族とは良好な関係を構築することは重要。入所申し込み時や入所時にあらゆる面での質問に答え、安心してホームで生活できるよう留意している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族が何を求めているのかは常に意識している。ニーズを理解しながらケアプランを作成し、ケア自体が良質なものになるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護者、要介護者という枠にとられず、共に日々の生活を送る者同士の立場で接しているという親頼感を互いに持てるような関係を築けるよう尽力している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の希望があれば、また、家族とのニーズがマッチした場合、電話等のツールを用い、本人と家族の絆が維持できるよう努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	新型コロナ禍で幾分希薄になりつつある馴染みの人や場所との関係も僅かではあるが復活しつつある。	近隣の散歩・買い物・訪問美容・面会・電話や手紙の取り次ぎ等を支援し、外泊・外食・一時帰宅等も支援できるが希望者は少ない。専門診療科受診時は家族と外食することもある。面会は現在エレベーター前で原則家族のみで実施しているが、コロナ対策が第5類に移行すれば、誰でもマスクのみ着用して30分以内に、居室でも面会できるように支援する予定である。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用間の親密度は意識している。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	殆どの方が看取りにてサービス利用（契約）を終了している。故に途中でサービス利用が終了するケースは稀有。入院加療を要される場合、ご家族の相談は受け止め、支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	介護計画改定時、本人と話し合い、ニーズや希望を聞き取りできる限りケアプランに反映させている。自己訴えが不可能な方は表情や仕草で理解できるように努めている。	テレビの音量に配慮し、懐かしい歌を歌ったり行事の飾り付け作り・最も盛り上がるババ抜き・一円玉体操・新聞を読むなど、利用者は自分なりの生活を楽しみたいと思っている様子で、職員は本人らしい暮らしを家族と連携して支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族との談話や情報提供曙書等で本人の人生を垣間見、理解、尊重し、入所してから安心して生活できるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	其々の一日の過ごし方は異なる。その全てを受け止め理解し、有する能力を引き出すことに努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画作成時は、本人の意思を確認しながら家族の意向を尋ねる機会を設けている。職員間でも話し合い、反映させている。	3か月毎のモニタリングはミーティング等で職員の意見等を基に話し合い、長期目標は1年、短期目標は6ヶ月としている。入院は殆どなく、状態変化により見直すことが多い。重度者の場合には誤嚥しないことや清潔の保持を重視し、実施状況は介護記録・何でも記入できる連絡簿等に記載して職員間で情報共有に努めている。管理者は2ユニットとも申し送りには必ず出席して状況を把握し、ホームの理念が反映された利用者主体の介護計画となるように取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	朝夕の申し送り時のカンファレンスや介護記録を参照に、情報を共有し、柔軟な支援対策に努めている。場合に寄っては介護計画に適時反映させている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族の力をほぼ借りることもなく、本人の希望が叶うよう手を差し伸べてきたのだが、コロナ禍以降如何ともし難い。尚、グループホームなので他のサービスは利用できない。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍で適正な支援は実施不可能。ドライブ以外天候を鑑みでの散歩くらいしか実施できていない。地域の資源を活用したいのだが、今現在は困難。だが、光明の兆しは見えている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	運営母体で同一敷地内にあるクリニックは在宅療養支援診療所を提出しており、当グループの訪問診療を行っているので、適切な受診、往診が受けられる。	母体医療機関を主治医としている殆どの利用者は月2回の訪問診療を受け、これまでのかかりつけ医を受診する数名の利用者は家族同伴での受診を支援している。眼科・皮膚科等の専門診療科の受診や、馴染みの歯科医院から訪問歯科診療を受ける利用者もいる。夜間は母体医療機関と24時間連絡体制が構築され、ホームとの連携も密に図られている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>今現在、職員として看護師は不在。看護師という範疇にとらわれれば、母体のクリニックに勤務する看護師の力を借りている。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>主治医が紹介状書くなどしている。こちらから入院先の情報は十分している。だが、コロナ禍で面会は不可。情報交換だけにとどまっている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>入所時、重度化対応に関しては十分な説明を行い、看取りが視野に入った時期が訪れたら看取りの書類に署名をして貰っている。看取りに際して主治医の説明を基に方向性を確認し、その後、家族の意思を汲み、職員一丸となって看取りに取り組む。</p>	<p>「重度化した場合の対応について」を整備して入居時に説明し、「看取りに関する指針」は必要な状態になった時に説明している。家族の希望もあり、管理者が中心になって、殆どの入居者がホームで最期を迎えている。職員に対しては、看取りに関する研修や終了後の振り返りは行っていないが、家族や関係機関との連携の下に、管理者が本人や家族の思いを汲み取って支え、支援に繋げている。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>緊急の対応は管理者兼ケアマネジャーが職員に知識を与えている。医師との連携を密にし、管理者はいつの時でも緊急時に対応できる体制にある。当然初期対応には万全を期している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>主に火災を、しかも夜間想定での避難訓練を消防署の立ち合いの元、実施している。また、近隣の住民の方々にも協力を要請し、快諾を得ている。</p>	<p>運営規程第12条に非常災害の計画を記載している。コロナ禍で消防署の協力は得られ難いが、消防設備業者の協力を貰いながら火災中心の避難訓練を年2回実施している。コロナ禍で住民等の協力は得られないが、近隣のコンビニと連携を図っている。ユニット毎に食料・水等を備蓄し、ラジオ・カセットコンロ・懐中電灯等も準備している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	敬いの気持ちを表すための言葉かけを管理者が指導している。プライバシー確保の為、居室入室の際はノックするなどし、利用者様のプライバシー保護を尊重している。	日頃から人格や尊厳を大切にした支援に心がけ、言葉遣いは「さん付け」で、入浴や排泄介助ではできるだけ身体の露出を少なくして羞恥心への配慮に努めている。異性介助も可能であり、トイレや居室のドアを閉める、不適切な言葉遣いには注意し合うなど、職員間でも意識付けを図っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	重要なスタンスである食事関係は、ホームの設定した日課時間にできるだけ合わせて貰っているが、入浴は自己決定できるよう余裕を持たせている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の権利を擁護している。危険性を孕まなければ、利用者の権利を重んじ、希望に沿えるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	全て利用者本位。職員はそれをサポートするのみ。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は食べ易く其々に適した大きさに切り、目でも楽しめるよう彩や盛り付けに工夫を凝らしている。後片付けは手伝って貰っている。	ユニット毎に職員が献立を作成して、調理専従職員と一緒に3食調理し、刻み・ミキサー・とろみ・栄養補助食品の活用など、食事形態にも配慮して提供している。利用者は皮むき・下膳・テーブル拭き等を手伝い、行事食も作っている。外食・テイクアウト・家族との会食は自粛しており、職員も一緒に見守りながら同じ食事を摂っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	バランスを考え、高齢者が食べやすく興味をそそる献立を考え提供している。傍ら利用者の持病を鑑み症状悪化に繋がらないよう常に心掛けている。勿論、習慣は尊重している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケア支援は重要な作業。その人その人に相応しい口腔ケアを実践している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	居室にポータブルトイレを置き、排泄がスムーズに行くようにしている。ポータブルトイレが苦手な方は、声掛けや本人が発するサインを周知し適時トイレ誘導を心掛けている。安易なおムツ使用は禁止している。	利用者毎に排泄パターンを把握し、誘導時の声かけにも工夫して、日中はなるべくトイレでの排泄を支援し、失敗時はシャワー浴で清潔保持に努めている。ポータブルトイレの利用者もあり、無理に安易におムツを使用せず、見守りながら支援している。利用者の約半数は緩下剤を使用しており、便秘予防に水分や野菜を多く摂り、機能訓練等を行うなど、対策を講じている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘に至らぬよう飲食物は考慮しているが、体質面から便秘状態に陥り易い方は体操等を実施している。個人個人に合わせて。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	諸トラブルを考慮し、休日入浴することはない。回数、時間を含め、入浴の嗜好は人其々。利用者が気持ちよく入れるよう配慮している。	曜日は固定せずに週2回、午前中を基本に入浴を支援している。排泄の失敗等にはシャワー浴で清潔保持に努め、たまに2人介助することもある。入浴剤は使用せず、シャンプー等は法人負担で対応している。管理者がほぼ全員介助しており、入浴後はアルカリイオン水で水分補給し、保湿剤・皮膚病治療のための軟膏塗布も行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	職員は薬に関しては概ね理解しているが、グループホームという性質上、利用者に何の薬かまた、効能を説明しても理解できない方が多い。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	グループホームという特色上、服薬している薬が何のための薬かを大半の方は理解しない。だが、服薬時の説明は実施している。症状の変化は主治医に報告、相談は逐次実行している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様の主な軽作業は洗濯物たたみ。皆で和気藹々と実行している。会話やレクリエーションは適時実施し、日々の生活に退屈さを感じないよう努めている。コロナ禍で外出は皆無。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍でほぼ実行不可。	コロナ禍で外出が難しくなっているが、買い物に一人ずつ同行したり、近隣の散歩等を行い、車で10分ほどの場所にある水源地に少人数で下車して、桜の花見を計画している。外泊・外食の希望者もなく、ホーム内でトランプのババ抜き・昔の歌謡曲・テレビ視聴・職員によるフラダンス等のレクリエーションを工夫して、気持ちのリフレッシュを図っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>預かり金は管理者が管理している。本来は不安を感じないように多少なりとも現金を預けたいが、健忘から至るトラブルが多発するので現在は実施していない。物品は適時購入している。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>利用者の日常生活動作が概ね低下しているため、手紙のやり取りは極めて困難。電話等で家族とのコミュニケーションを摂取する場合が多い。</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>ホールは適正な家具を配置し、気軽に利用者様が懇話できるようにしてある。光がふんだんに入るので彩光を考慮し、眩しすぎないように気を遣っている。その他の共用箇所は快適に過ごせるよう配慮している。季節や祭事には特に気を遣っている。</p>	<p>ホールは明るく、広々とした空間に円形テーブル・ソファ・テレビ等が利用者の動線を考慮して配置され、対面キッチンからは調理の音や匂いを感じられ、利用者はゆったりとくつろいで過ごしている。壁には利用者の作品・行事の写真等が飾られ、換気のために常に少しずつ窓を開け、空気清浄機も設置され、手指消毒剤・清掃等の徹底を図って、心地よい環境作りに努めている。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>人間関係を具に検証し、仲の良い者同士快適に暮らせるよう留意している。テーブル、椅子の配置には相当気を遣っている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>入居時持ち込み禁止の物品はほぼ制限なし。本人様が気持ちよく生活できるよう居室内の利便さをチェックすることは怠らない。</p>	<p>居室は全室洋室の腰高窓仕様となっており、ベッド・エアコン・大きなタンス・洗面台が常備されている。衣替えは職員が行い、ホームで管理している。利用者は馴染みのテレビ・加湿器・写真・寝具・茶碗類等を自由に持ち込み、家庭同様に憩える暮らしとなるように支援している。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>フローア-内はバリアフリーが徹底している。本人様のできることできないことを把握し、安全且つつ自立した生活が営まれるよう工夫している。</p>		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1 ほぼ全ての利用者の
		○	2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
		○	4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は，生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1 ほぼ全ての職員が
		○	2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て，利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て，利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない